

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
分担研究報告書
好酸球性副鼻腔炎における抗体治療患者の臨床的寛解に関する研究

研究分担者 朝子 幹也 関西医科大学 病院教授

研究要旨

難治性疾患である好酸球性副鼻腔炎は通常治療に抵抗性で決め手となる治療が存在しない。しかし、手術治療や抗体治療は病態に大きな変化をもたらす disease modifier として位置づけられる。抗 IL-4Ra 抗体の効果は非常に高く寛解が目指せるポテンシャルを持っている。抗 IL-4Ra 抗体を継続使用している症例が効果を維持している状況を作れるかを検討する。

A. 研究目的

好酸球性副鼻腔炎治療における抗 IL-4Ra 抗体の効果と寛解させることができるかを検討する。

B. 研究方法

当院において令和 5 年 1 月から 12 月にかけて好酸球性副鼻腔炎に対して抗 IL-4Ra 抗体投与を継続している症例を対象に、後方視的に検討を行った。嗅覚脱失や鼻閉などの患者の訴えがなく、鼻茸スコアが 3 点以下、1 年以上増悪がなく、併存症の増悪もない状態を 1 年以上全身性ステロイド投与がない状態で維持できていることを寛解とし、検討した。

（倫理面への配慮）

個人情報 は匿名化し保護されている

C. 研究結果

抗 IL-4Ra 抗体投与 1 年継続時点で 51 症例中 40 症例（78%）、2 年継続時点で 35 症例中 27 症例（77%）と高い寛解率を示した。一方で 3 年継続では 21 症例中 11 症例（52%）、4 年では 10 症例中 4 症例（40%）と下がる傾向であった。

D. 考察

抗 IL-4Ra 抗体治療は早期に寛解状態へ誘導できるポテンシャルがあることがわかった。一方で寛解状態でも全身ステロイド投与を要する症例も長期的には存在し、短期に寛解を達成しても安易な中断は避けることが望ましい。

E. 結論

好酸球性副鼻腔炎に対する抗 IL-4Ra 抗体投与は臨床的寛解を早期に達成するが、中止を決定するには長期的な経過観察を要する。

F. 健康危険情報

抗 IL-4Ra 抗体で一部高好酸球血症を認めた。

G. 研究発表

1. 論文発表

上下気道の好酸球性炎症疾患(好酸球性副鼻腔炎と気管支喘息). jmed mook(89)63-66. 2023

2. 学会発表

ISAIN&IRS 2024. Long-Term Outcomes and Clinical Remissions of Dupilumab

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし